

ヤマト住建株式会社

ポジティブ・インパクト・ファイナンス評価書

2024 年 3 月 29 日

YMCC
YM CONSULTING
CORPORATION

ワイエムコンサルティング株式会社

【原則に基づく評価実施】

ワイエムコンサルティングは、ヤマト住建株式会社に対してポジティブ・インパクト・ファイナンス（以下「PIF」）を実施するにあたって、同社の事業活動が環境・社会・経済に及ぼすインパクト（ポジティブインパクト、ネガティブインパクト）を分析・評価した。

この分析・評価は、国際環境計画金融イニシアチブ（UNEP_FI）が提唱した PIF 原則および実施ガイド（モデル・フレームワーク）、ESG 金融ハイレベル・パネルにおいてポジティブインパクトファイナンスタスクフォースがまとめた「インパクトファイナンスの基本的な考え方」に則ったうえで、ワイエムコンサルティングが開発した評価体系に基づいている。

目次

I. 会社概要	3
I-1. 基本情報	3
I-2. 沿 革	3
I-3. 経営理念	5
I-4. 事業活動	5
II. サステナビリティ活動	6
II-1. 活動の全体像	6
II-2. 環境面	8
II-3. 社会面	9
II-4. 経済面	11
III. インパクトに好影響を与える取り組みの抽出・評価	12
III-1. バリューチェーン分析	12
III-2. インパクトレーダーによるマッピング	12
III-3. インパクトに好影響を与える取り組みの抽出	15
III-4. インパクトニーズの確認	19
III-5. 山口銀行の方向性との整合	22
III-6. インパクトに好影響を与える取り組みに対する評価	23
IV. 目標・KPI	23
IV-1. 気候変動を抑え未来の子どもたちのために地球環境を守る家づくりを行います	23
IV-2. 高気密・高断熱住宅で健康・快適・安心な家づくりを行います	24
IV-3. 長寿命な住宅で人にも地球にもやさしい家づくりを行います	24
IV-4. 全ての人と共により良い社会を目指す家づくりをします	25
V. モニタリング	26
V-1. インパクトの管理体制	26
V-2. 銀行によるモニタリング	26

I. 会社概要

I-1. 基本情報

会 社 名	ヤマト住建株式会社
創 業	1987 年 11 月
代 表 者	代表取締役社長 中川 泰
所 在 地	兵庫県神戸市中央区浜辺通 5 丁目 1 番 14 号 神戸商工貿易センタービル 18 階
事 業 内 容	戸建て注文住宅建設業
従 業 員 数	555 名
資 本 金	3 億 1,900 万円
売 上 高	327 億円(2023 年 12 月期 見込)
事 業 所 (主 な 拠 点)	【本社】 兵庫県神戸市中央区浜辺通 5 丁目 1 番 14 号 神戸商工貿易センタービル 18 階 【アフターメンテナンス事業部】 兵庫県神戸市中央区港島中町 2 丁目 2 番 1 神戸船用品センター内 3 号棟-2 【用地開発部】 兵庫県神戸市中央区磯部通 3 丁目 1-2 大和地所三宮ビル 809 【東京支店】 東京都台東区東上野 3 丁目 37 番 9 号 かみちビル 7 階 【神奈川支店】 神奈川県大和市渋谷 7 丁目 11 番 6 号 その他、国内 35 拠点

I-2. 沿 革

1987 年 11 月	神戸市灘区にて「ヤマト住建」創業
1990 年 1 月	組織変更・法人設立 社名「ヤマト住建株式会社」
1992 年 7 月	店舗拡張・常設展示場「ハウジングギャラリー」開設
1993 年 5 月	新築一戸建分譲住宅事業開始
1995 年 1 月	阪神・淡路大震災障がい者救済ボランティア
1997 年 8 月	「自社社屋」取得
1999 年 8 月	営業支店「大阪支店」開設
1999 年 10 月	宅地建物取引免許建設大臣免許取得
2001 年 2 月	人に優しい健康快適住宅「木の家オアシス」開発
2002 年 11 月	本社ビル移転(神戸三宮ビル)
2002 年 12 月	分譲マンション事業を開始
2003 年 10 月	営業支店「東京支店」開設
2004 年 1 月	増資(資本金 3 億 1,900 万円)
2007 年 12 月	外断熱工法住宅「エネージュ」開発

2008 年 11 月	旧大阪支店を本店に統合
2009 年 4 月	「エネージュ」が住宅型式性能認定を取得
2009 年 6 月	本社移転(中山手安田ビル)
2010 年 1 月	ゼロエネルギー住宅「スーパーエネージュ」開発
2010 年 12 月	屋上庭園のある家「スカイガーデンハウス」発売開始
2011 年 7 月	新感覚注文住宅「エネージュ IP」開発
2011 年 8 月	全商品を「エネージュ」シリーズへ名称統一
2012 年 4 月	本社移転(神戸商工貿易センタービル)
2014 年 2 月	ダブル断熱「エネージュ W」開発
2015 年 1 月	新シリーズ D-mister「VIVO」開発
2015 年 8 月	ゼロエネルギー住宅「エネージュ Z」開発
2016 年 6 月	プラスエネルギー住宅「エネージュ PLUS」開発
2017 年 10 月	プラスエネルギー自給自足住宅「エネージュ EV」発売
2018 年 1 月	エアコン 1 台で全館空調する家「ぬくぬくハウス」開発
2018 年 11 月	ヤマト住建「SDGs 宣言」を発表
2019 年 6 月	HEAT20 G1・G2 グレード住宅施工実績「施工実績最多賞」受賞
2020 年 3 月	「ハウス・オブ・ザ・イヤー・イン・エナジー2019」において、「エネージュ UW-V」が特別優秀賞と特別優秀企業賞をダブル受賞
2021 年 12 月	「省エネ大賞 製品・ビジネスモデル部門」において経済産業大臣賞(ZEB・ZEH 分野)を受賞
2023 年 4 月	HEAT20 認証システム「住宅システム認証」で G3 認証を取得
2024 年 2 月	令和 5 年度 東京エコビルダーズアワードでハイスタンダード賞/断熱・省エネ性能部門・ハイスタンダード賞/再エネ設備設置量部門・リーディングカンパニー賞/断熱・省エネ性能部門・リーディングカンパニー賞/再エネ設備設置量部門の 4 部門を受賞

◆2024 年 2 月 21 日付同社プレスリリース



(出所 : 同社ホームページより一部抜粋)

1-3. 経営理念

経営理念	万人に喜びを
ミッション	日本の住宅を世界基準にする
ビジョン	住まいを通じて全国のお客様に喜んでもらえる企業になる (全国のお客様が健康で快適に暮らせるように導くこと)
コア・バリュー	私達は、お客様にまごころの奉仕で喜びと満足を与えます 私達は、相互信頼に基づく親密な協力で、働きがいのある会社を築きます 私達は、社業を通して社会に貢献します 私達は、健全な事業を展開し株主やお取引先の期待に応えます
SDGs4つの柱	気候変動を抑え未来の子どもたちのために地球環境を守る家づくりを行います 高気密・高断熱住宅で 健康・快適・安心な家づくりを行います 長寿命な住宅で人にも地球にもやさしい家づくりを行います 全ての人と共により良い社会を目指す家づくりを行います

ヤマト住建株式会社(以下、同社)は、「万人に喜びを」の理念のもと、「日本の住宅を世界基準にする」ことの実現を目指して、「長寿命」「ゆとりのある間取り」「高い断熱性能」を有する住宅を適正な価格でお客様に提供している。同社の創業者・代表取締役会長の西津氏は昭和 36 年に発生した第二室戸台風をきっかけに「頑丈で何があってもビクともしない家」が欲しいと思うようになり、創業以降「安心できる家＝丈夫な家」として住宅を提供し続けてきた。その後は人の健康に配慮した住宅、環境に配慮した住宅等、人が健康・快適に住める、安心して住める、住んで幸せになる家づくりを追求し続けている。

また西津氏の「人を中心とした経営」の考えのもと、社員に対してもコア・バリューを共有し、全社一丸となって様々な挑戦を続けている。

同社が大切にしている言葉の一つに、「巧遅は拙速に如かず」という言葉がある。「物事を取り組むときに、時間をかけて間違いのない優れた結果を導き出すことよりも、多少出来が悪くともなるべく早く完結させることこそ価値がある」という意味である。この言葉は、時流を読み、絶えずお客様が求める商品をできる限り早く開発し、世の中へ提案を行う、という同社の基本姿勢を表す言葉となっている。

1-4. 事業活動

同社の事業は戸建て住宅の新築及び販売が売上の大半を占めており、戸建て住宅の販売においては神戸市北区エリアでトップシェアを誇っている。メインターゲットは 20～30 歳代の家族であり、SNS やメディア等を積極的に活用することで売上は伸長し続けている。燃料価格高騰により、電気料金等が大幅に値上がりする中、同社が得意としている省エネ住宅の関心・需要拡大は、同社の業績に大きく寄与している。

◆ 同社が取り扱う主な商品

エネージュ UW	エネージュ LCCM
 長寿命で安くて高性能な世界基準の住宅普及を目指して作られた高性能住宅。内・外W断熱施工や国内最高水準の樹脂サッシの標準装備、丁寧な施工技術による省エネ性能ナンバーワン住宅。ハウス・オブ・ザ・イヤー・イン・エナジー2014 大賞受賞	 30坪・2階建て 2,107万円からの費用を抑えた施工と、内・外断熱や樹脂サッシによる高気密・高断熱と太陽光パネルによる電力の自給という高環境性能を両立させたモデル。自由設計の為予算やニーズに合わせたプランの作成が可能

全館空調 YUCACO システム	未来の子どもたちのために地球環境を守る家
 ルームエアコン 1 台で住居全体を均一な温度に保つことができる全館空調システム。	 家庭で使用する電力を自給自足することで、カーボンマイナスを目指し、未来の子どもたちへより良い地球環境を渡せることをコンセプトにした住宅。

II. サステナビリティ活動

II -1. 活動の全体像

サステナビリティへの具体的な取り組みとして、同社内で様々な活動を行っている。活動の内容については、以下の表の通りである。

◆サステナビリティへの具体的な取り組み

3 すべての人に健康と福祉を 	・ 気密・断熱性能にこだわり、住まいの温度差を生じさせない健康な家づくりを徹底 ・ 住宅性能のさらなる向上・全館空調システムの導入
4 質の高い教育をみんなに 	・ 教育機関へ教材や運動器具などの寄付
5 ジェンダー平等を実現しよう 	・ なでしこプロジェクトを発足し、商品開発や様々な取り組みを実施 ・ 女性設計士やコーディネーターによる、女性目線の暮らしを提案
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに 	・ 太陽光発電・蓄電池・V2H システムなど、再生可能エネルギーの普及を推進 ・ 「未来の子どもたちのために地球環境を守る家」の商品化 ・ 再エネ 100 宣言 RE Action に参加
8 働きがいも経済成長も 	・ 目安箱の設置やオリエンテーションの実施による風通し改善 ・ 正社員大工の採用による技術者養成 ・ 社員階層別教育
9 産業と技術革新の基盤をつくろう 	・ 協力企業団体「ヤマト共栄会」を組織し、技術の水平展開を実施
11 住み続けられるまちづくりを 	・ 高い耐震・制振性能の家づくり ・ 全館空調、高気密・高断熱によりヒートショック予防
12 つくる責任 つかう責任 	・ 再生建材を使用した家づくり ・ 長期住宅保証、地盤保証
13 気候変動に具体的な対策を 	・ 全館空調、高気密・高断熱により電気使用量削減 ・ ZEHビルダーとして ZEH・LCCM の普及推進
15 陸の豊かさも守ろう 	・ 再生建材を使用した家づくり ・ 廃棄物の適正処理
17 パートナーシップで目標を達成しよう 	・ 協力企業団体「ヤマト共栄会」を組織し、技術継承・後継者確保 ・ 工務店やビルダーに向けたセミナーの実施

II -2. 環境面

同社は、同社が掲げる SDGs4つの柱の中でも特に「気候変動を抑え未来の子どもたちのために地球環境を守る家づくり」を行うことを重視している。同社の環境面での主な活動としては、以下が挙げられる。

① ZEH・LCCM 住宅の普及推進

同社は国土交通省から ZEH(*ネット・ゼロ・エネルギーハウス:エネルギー収支をゼロ以下にする住宅)ビルダーの認定を受けている。高環境性能住宅「エネージュシリーズ」を始めとして、温室効果ガス発生源となる家庭用電力使用量を極限まで抑える住宅の普及に取り組んでいる。

同社は 2025 年までに「年間 ZEH 受注率 80%」の達成を目標として営業活動を行っているが、2022 年度に ZEH 受託実績 88%を達成。適正化価格での商品供給に加えて、日々のコストダウンにも注力している。

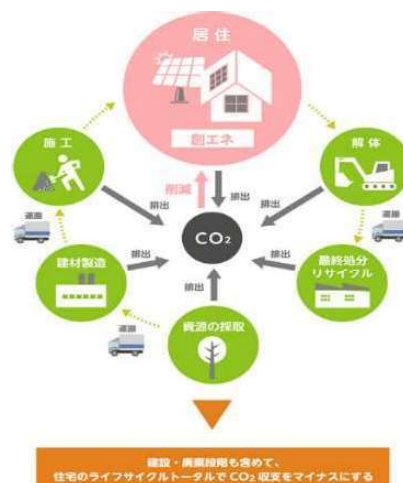
また ZEH の上位モデルでもある LCCM 住宅(*ライフサイクルカーボンマイナス:住宅の建設時、居住時、廃棄までのトータルで CO2 をマイナスにする住宅)の受注についても販売を推進しており、モデルハウスへの宿泊体験等を通じ同社の住宅をお客様に体感してもらうことで、さらなる ZEH・LCCM 住宅の普及に取り組んでいる。

◆ZEH 達成目標及び達成率

	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
ZEH 達成目標	70%	80%	80%	80%
ZEH 達成率*	73%	78%	77%	88%

*ZEH 達成率:成約数(新築注文住宅)に対しての ZEH の割合

◆LCCM 住宅イメージ



(出所 : 同社ホームページより一部抜粋)

② 太陽光発電・蓄電池・V2H システムなど、再生可能エネルギーの普及を推進

同社は施工する住宅に太陽光発電設備の装備を積極的に推進している。太陽光発電で発電した電気を、エネージュシリーズの高気密・高断熱、全館空調で効率よく使用し、昼間に余った電力を電気自動車(EV)へ充電、夜間等発電量が不足する時間帯は、すべての家電製品に給電できる V2H「SMART V2H」で EV からの電力を余すことなく活用するといった仕組みを作り上げることで再生エネルギーの普及の推進を行っている。

◆再生エネルギー使用イメージ



(出所 : 同社ホームページより一部抜粋)

③ 再生建材の使用

同社が施工する住宅において、廃材・未利用木材を原料としながら、耐震性・耐久性の高い構造用パーティクルボード(廃材の木片などを集積した建材)を採用しており、性能を保ちながら資源の有効活用ができる施工体制を構築している。

パーティクルボードは主原料に木質廃棄物(主に建築解体材)のみを使用した 100%リサイクルで、CO2 排出削減に貢献する環境負荷軽減商品である。建築材(床・壁)、家具用、住宅内装用(キッチン収納)等に広く使用されており、同社においても今後積極的に使用を推進していく。

◆パーティクルボードの特徴

パーティクルボードはSDGsの優等生	
3	有害物質を排除した原料チップを活用
6 11	生産における資源効率の改善
7	バイオマスボイラーの利用、エネルギー使用量を把握し削減に取り組み中
11	使用化学物質を把握し、環境負荷の低減に取り組み中
12 15	リサイクル木材の高度有効利用、未利用木材の活用
13	木材のマテリアルリサイクルによる炭素固定期間の長期化
14	国産材、地域産材、間伐材活用による水源林の保全
17	グリーン調達にかなう資材提供。産官学やサプライチェーンとの連携

(出所 : 日本繊維板工業会「木質ボード SDGs・繊維版パーティクルボードで持続可能な循環型社会を」から一部抜粋)

II -3. 社会面

同社の社会境面での主な活動としては、以下が挙げられる。

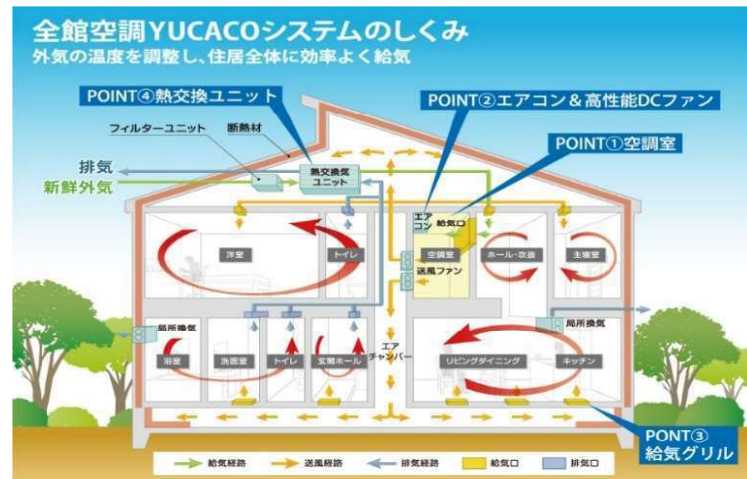
① 住宅性能のさらなる向上・全館空調システムの導入

同社は住居全体を均一な温度に保つことができる全館空調をルームエアコン 1 台で実現させている。この全館空調は「YUCACO」を始め、同社では合計 3 種類の商材が展開されている。熱交換気ユニットを通じて、新鮮な外気の取り入れと居内の排気を行い、空調室内のルームエアコンで室温をコントロール。空調室で暖冷房された空気をダクトやエアチャンバーで各居室へ運び、室内を循環した空気は、排気口から熱交換気ユニットを通じて、外気から取り入れた空気と熱交換して排気する。

これまでの全館空調は導入費用や光熱費が高価であることがデメリットであったが、「エネージュシリーズ」

が持つ高性能機能のおかげで、快適で低価格、省エネの住宅提供が可能となっている。

◆YUCACO のしくみ



(出所 : 同社ホームページより一部抜粋)

② 気密・断熱性能にこだわり、住まいの温度差を生じさせない健康な家づくりを徹底

住宅室内の温度変化を一定にすることで、ヒートショックを予防でき、高齢者の心筋梗塞や脳梗塞のリスクを低減できる。WHO 基準でも、室内温度を 18 度以上にする事で、コレステロール値の上昇や血圧改善が可能など、高気密・高断熱住宅に住まうことが健康改善につながると謳われている。このことから同社は、高気密・高断熱と全館空調システムを搭載した「温度差の無い家」の普及に取り組んでおり、住む人にとって健康で快適な家づくりを徹底している。

同社は外張り断熱工法(外断熱)を採用している。建物を外側から断熱材で隙間なく覆うことで、構造体が外気の影響を受けにくくなり、高い断熱機能を持たせることができ、その結果、家の温度を安定する。

◆外張り断熱工法



(出所 : 同社ホームページより一部抜粋)

③ なでしこプロジェクト

同社は、風通しの良い職場づくりやダイバーシティ経営に取り組み、社員一人一人が自分らしく働ける「ディーセントワーク」の実現を目指している。中でも「なでしこプロジェクト」による女性社員ならではの活躍の場づくりや女性管理職の育成・登用を推進していくために、育休明け社員の時短勤務推進、各店キッズコーナーを社員保育スペースに活用、女性目線のカatalogとオリジナル商品の開発等、様々な施策に取り組んでいる。

④ 教育機関へ教材や運動器具などの寄付

同社は、本業を通じた社会貢献活動に加えて、社会・文化などの分野でも積極的に活動し、社会の持続的発展に寄与できるよう社会事業や福祉活動を行っている。

地震や豪雨の被害に遭われた地域への義援金の寄付、現地へのボランティア参加に加えて、近年は金融機関を通じて発行した私募債を利用し、同社が拠点を持つ地域の近隣の小学校等へ備品の寄贈を行っている。

◆小学校へ寄贈された図書や楽器



(出所 : 同社ホームページより一部抜粋)

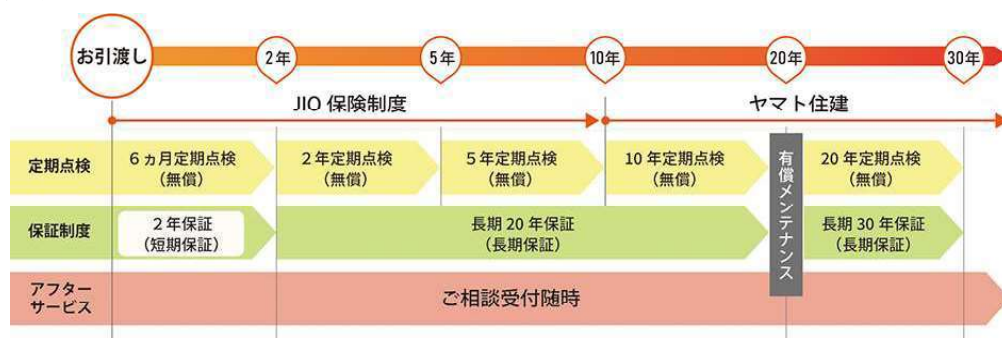
II -4. 経済面

① 長く住み続けられる家づくり(長期住宅保証)

同社では、家づくりに対して「長寿命であること」をミッションとして掲げており、住宅の引き渡し後の定期点検、アフターサービスにも重点を置いている。引き渡し後 6 ヶ月目に始めの点検を行い、その後 2 年目、5 年目、10 年目に点検が行われる。一般的に 10 年目の点検は有償メンテナンスが多く、様々な出費が予測されるが、同社は 10 年目の有償メンテナンスが不要で構造部分と防水に関する長期 20 年保証を導入している。

また 20 年保証満了時に、同社における点検結果に基づき必要な有償メンテナンスを行った場合、基本構造部分(柱や梁など住宅の構造体力上主要な部分や雨水の侵入を防止する部分)の保証を延長できる。20 年目以降に有償メンテナンスをした場合、引き渡し日より最長 30 年間保証が可能となっている。

◆住宅の長期保証イメージ



(出所 : 同社ホームページより一部抜粋)

② 協力企業団体「ヤマト共栄会」の組織化

同社は、パートナー建設企業や職人で構成する「ヤマト共栄会」を組織し、企業・職人間の技術力を競う協議会の開催や技術講習会の開催、適正化価格での工事発注を行い、パートナーのスキル向上や関係性の強化を行っている。加えて、自社で採用した大工候補者をパートナー企業と共同で育成する「正社員大工」の取り組みも行っている。安定した雇用と体系的な技術伝承によりスキルの高い人材の確保を行うことで、深刻化する建築業界の後継者不足に対する解決の道を探っている。

III. インパクトに好影響を与える取り組みの抽出・評価

III-1. バリューチェーン分析

前段までの内容で、同社の概要及びサステナビリティに関する活動について詳しく理解を進めてきた。これらの内容を踏まえた上で、以降の段では同社の事業活動が環境・社会・経済に与えるインパクトを特定していく。そのためにまず、同社の事業のバリューチェーンを国際標準産業分類における業種コードで整理し、同社の商流、川上・川下の事業について把握を行っていく。

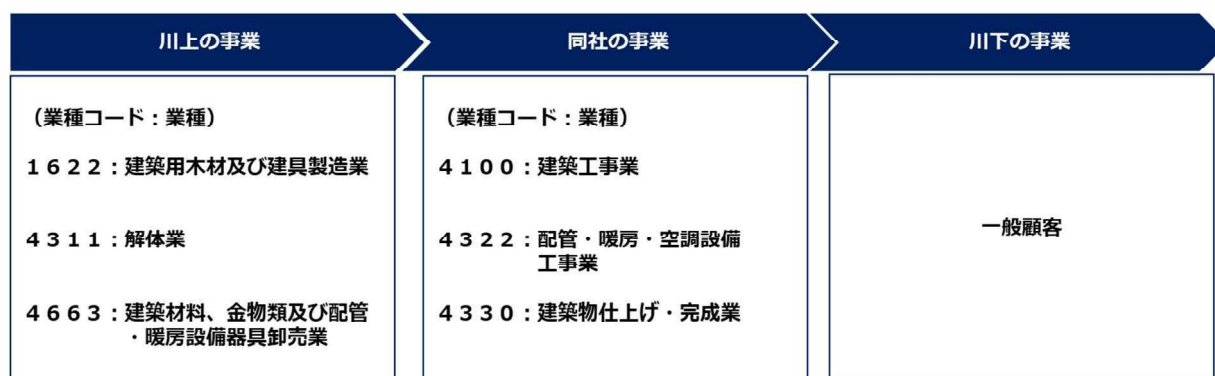
同社は住宅の設計・施工・販売に加えて、アフターフォローサービス、建築関連技術の教育・指導等、住宅に関する事業を幅広く行っていることが特徴である。

そのため同社の事業内容について、「4100:建築工事業」「4322:配管・暖房・空調工事業」「4330:建築物仕上げ・完成業」であることを定義した。

また同社の川上の事業については、同社の主な取引先が建築資材販売を行う卸売業者となるものの、資材の原料(木材、建具等)も同社のバリューチェーンに深く関係していることや、新築の住宅についても、古い建物を解体等した上で建築するケースも多くあることから、「1622:建築用木材及び建具製造業」「4311:解体業」「4633:建築材料、金物類及び配管・暖房設備器具卸売業」と定義した。

尚、川下の事業については、販売先は全て一般個人となるため、今回のバリューチェーンにおいては業種を定義しないこととした。

◆バリューチェーン



III-2. インパクトレーダーによるマッピング

バリューチェーン分析によって確認した同社の事業活動と関連する業種について、UNEP_FI が提供するインパクトレーダーを使用し、各インパクトトピックにおけるポジティブインパクト・ネガティブインパクトの発現状況を確認した。

なお、川下の事業は一般個人となるため、インパクトマッピングを用いた検討は行わない。

① 川上事業における発現したインパクト

同社の川上の事業におけるポジティブインパクト・ネガティブインパクトの発現状況は下の図の通り。尚、発現しているインパクトトピックの中でも、同社の事業に関連の無いトピックである「現代奴隷」「民族・人種平等」は今回分析の対象外とする。

川上の事業において発現した主なポジティブインパクトは、社会面では「住居」「雇用」「賃金」、経済面では「零細・中小企業の繁栄」「インフラ」となっており、環境面でのポジティブインパクトは見られない。「インフラ」においては、各業種がインフラの建設には必要不可欠であるため、特に強いポジティブインパクトが発現している。

一方、ネガティブインパクトの発現状況としては、社会面では「健康及び安全性」「賃金」「社会的保護」、環境面では「気候の安定性」「水域」「大気」「廃棄物」等のインパクトトピックが見られる。尚、「賃金」においてポジティブインパクトよりもネガティブインパクトが強く発現しているのは、これら川上の業種においては、常に仕事はあるものの、潜在的な低収入、不定期収入といったことが起こり得やすい等の理由からである。

◆川上事業におけるインパクトレーダー

インパクトトピック	インパクトレーダーにより発現したインパクト					
	建築用木材及び建具製造業		解体業		建築材料、金物類及び配管・暖房設備器具卸売業	
	ポジティブ	ネガティブ	ポジティブ	ネガティブ	ポジティブ	ネガティブ
現代奴隷				●●		
自然災害				●●		
健康及び安全性		●		●●		●
水						
エネルギー					●	
住居	●				●	
健康と衛生					●	
文化と伝統						
雇用	●		●		●	
賃金	●	●●	●	●●	●	
社会的保護		●		●		●
民族・人種平等				●●		
その他の社会的弱者				●●		
零細・中小企業の繁栄	●		●		●	
インフラ	●		●●		●	
気候の安定性		●		●●		●
水域		●		●		●
大気		●		●		●
土壌				●●		
生物種				●●		●
生息地				●●		●
資源強度		●●		●●		
廃棄物		●		●●		●

*●の数でインパクトの強弱を表現

(出所 : インパクトレーダー改定版 2022 を用いてワイエムコンサルティング作成)

② 同社事業における発現したインパクト

次に同社の事業におけるポジティブインパクト、ネガティブインパクトの発現状況についての確認を行う。発現状況については下の図の通り。川上の事業同様、発現しているインパクトトピックの中でも、同社の事業に関連の薄い以下トピックは今回分析の対象外とする。

【対象外とするインパクトトピック】

「現代奴隷」「水」「エネルギー」「健康と衛生」「文化と伝統」「社会的保護」「民族・人種平等」「その他の社会的弱者」「零細・中小企業の繁栄」「インフラ」「水域」「大気」「土壌」「生物種」「生息地」

◆ 自社事業におけるインパクトレーダー

インパクトトピック	インパクトレーダーにより発現したインパクト					
	建築工事業		配管・暖房・空調設備工事業		建築物仕上げ・完成業	
	ポジティブ	ネガティブ	ポジティブ	ネガティブ	ポジティブ	ネガティブ
現代奴隷		●●		●●		●●
自然災害		●●		●●		●●
健康及び安全性		●●	●	●●		●●
水			●●			
エネルギー	●	●				
住居	●●		●●		●●	
健康と衛生			●			
文化と伝統		●				
雇用	●		●		●	
賃金	●	●●	●	●●	●	●●
社会的保護		●		●		●
民族・人種平等		●●		●●		●●
その他の社会的弱者		●●		●●		●●
零細・中小企業の繁栄	●		●		●	
インフラ	●●		●●		●●	
気候の安定性		●●		●●		●●
水域						
大気				●		
土壌		●●		●●		●●
生物種		●●		●●		●●
生息地		●●		●●		●●
資源強度		●●		●●		●●
廃棄物		●●		●●		●●

*●の数でインパクトの強弱を表現

(出所 : インパクトレーダー改定版 2022 を用いてワイエムコンサルティング作成)

③ インパクトの整理

同社におけるポジティブインパクト要因・ネガティブインパクト要因を、インパクトレーダーにて発現したインパクトごとの機会またはリスクとされる要因と、同社のサステナビリティに関する取り組みを踏まえ、以下の通り整理した。

◆ 同社におけるポジティブ・ネガティブインパクト要因

インパクトトピック	ポジティブインパクト要因	ネガティブインパクト要因
自然災害	- 高い耐震・制震性能の家づくりを行っている - 長期住宅保証、地盤保証を行っている	- 建築工事において GHG 排出量が多くなる可能性がある - 建築現場において持続不可能な土地利用が含まれる可能性がある
健康及び安全性	気密・断熱性能にこだわり、住まいの温度差を生じさせない健康な家づくりを徹底している	建物建築の為の使用建材に有害製品が含まれる等の可能性がある
住居	「長寿命」「ゆとりある間取り」「高い断熱性能」を有する住宅を適正な価格で提供している	
雇用	- アルムナイ人材を含む中途採用、育成に注力している - コグニティブダイバーシティの推進を行っている	

ジェンダー平等		・ 女性社員の活躍を促進する環境づくりを推進している他、なでしこプロジェクト発足させ、女性ならではの視点を経営・事業に取り入れることでネガティブインパクトの抑制・緩和を行っている
気候の安定性	・ 全館空調、高気密・高断熱により電気使用量を削減している ・ ZEHビルダーとして ZEH・LCCM の普及を推進している	・ 材料の輸送や、建築工事等において、GHG 排出量が多くなる可能性がある
資源強度	・ 全館空調、高気密・高断熱により電気使用量を削減している ・ ZEHビルダーとして ZEH・LCCM の普及を推進している ・ 太陽光発電・蓄電池・V2H システムなど、再生可能エネルギーの普及を推進している	・ 建築工事において、エネルギー、水、金属、鉱物、化学物質、木材等を大量消費する可能性がある ・ 再生建材を使用した家づくりを行うことでネガティブインパクトの抑制・緩和を行っている
廃棄物	・ 長期優良住宅を供給して住居の長寿命化に貢献している	・ 建築工事において、廃棄物が大量に発生する可能性がある ・ 法令を遵守し、廃棄物の適切な処理を行うことでネガティブインパクトの抑制・緩和を行っている

青字・・・ポジティブインパクトを創出・継続する同社の取組

赤字・・・ネガティブインパクトを抑制・緩和する同社の取組

黒字・・・インパクトリーダーにて発現したインパクトごとの機会またはリスク

III -3. インパクトに好影響を与える取り組みの抽出

バリューチェーン分析、インパクトリーダーによるマッピングを基に、同社の事業活動によって環境・社会・経済に好影響を与える取り組み以下の通り抽出した。

① 地球環境に配慮した住宅の提供
② 再生建材の活用による環境負荷軽減
③ 健康な生活に寄与する気密・断熱性能の高い住居の提供
④ 長期優良住宅制度に対応した家づくり
⑤ なでしこプロジェクト等の活動を通じた女性社員の活躍
⑥ アルムナイ制度の推進

同社の取り組みにおけるインパクトピック毎の発現状況をインパクトリーダーによるマッピング結果から抽出し、確認した。

◆同社の取り組みにおけるインパクトピックごとの発現状況

インパクトピック	発現したインパクト	
	ポジティブ	ネガティブ
自然災害	●	
健康及び安全性	●	
住居	●	
雇用	●	
ジェンダー平等		●
気候の安定性	●	
資源強度	●	●
廃棄物	●	

各取り組みについて、「インパクトの種類」、「インパクトピック」、「関連する SDGs」、「インパクトに好影響を与える同社の方針・具体的取り組み」を以下の通り整理した。

① 地球環境に配慮した住宅の提供

項目	内容
インパクトの種類	社会面のポジティブインパクト創出・継続 環境面のポジティブインパクト創出・継続
インパクトトピック	「住居」「資源強度」「気候の安定性」
関連する SDGs	【7.3】 2030 年までに、世界全体のエネルギー効率の改善率を倍増させる 【9.4】 2030 年までに、資源利用効率の向上とクリーン技術及び環境に配慮した技術・産業プロセスの導入拡大を通じたインフラ改良や産業改善により、持続可能性を向上させる。全ての国々は各国の能力に応じた取組を行う。 2030 年までに、全ての人の、適切、安全かつ安価な住宅及び基本的サービスへのアクセスを確保し、スラムを改善する。 【11.1】 2030 年までに、全ての人の、適切、安全かつ安価な住宅及び基本的サービスへのアクセスを確保し、スラムを改善する。 【13.2】 気候変動対策を国別の政策、戦略及び計画に盛り込む。 
インパクトに好影響を与える同社の方針・具体的取り組み	・ 同社は ZEHビルダーとして ZEH・LCCM 住宅を提供する体制を構築している ・ 同社の施工住宅における ZEH の割合は高水準で推移しており、今後は上位モデルでもある LCCM 住宅の受注について推進していく方針

② 再生建材の活用による環境負荷の軽減

項目	内容
インパクトの種類	社会面のポジティブインパクト創出・継続 環境面のポジティブインパクト創出・継続 環境面のネガティブインパクト抑制・緩和
インパクトトピック	「住居」「資源強度」「廃棄物」
関連する SDGs	【9.4】 2030 年までに、資源利用効率の向上とクリーン技術及び環境に配慮した技術・産業プロセスの導入拡大を通じたインフラ改良や産業改善により、持続可能性を向上させる。全ての国々は各国の能力に応じた取組を行う。 【12.5】 2030 年までに、廃棄物の発生防止、削減、再生利用及び再利用により、廃棄物の発生を大幅に削減する。

	 
インパクトに好影響を与える同社の方針・具体的取り組み	・ 同社では、使われなくなった木材製品や未利用木材を原料とした再生建材（パーティクルボード）を採用している。パーティクルボードの活用は、廃棄物の削減という環境面での貢献のみでなく、耐震性・耐水性の向上といった機能面でも効果が高く、同社の住宅性能の引き上げに寄与している ・ 同社は今後も環境面と住宅性能面の双方に寄与する再生建材の活用拡大に向け、新たな再生建材の採用に積極的に取り組むこととしている

③ 健康な生活に寄与する気密・断熱性能の高い住居の提供

項目	内容
インパクトの種類	社会面のポジティブインパクト創出・継続 環境面のポジティブインパクト創出・継続
インパクトトピック	「健康及び安全性」「資源強度」「住居」
関連する SDGs	【3.4】 2030 年までに、非感染性疾患による若年死亡率を、予防や治療を通じて3分の1減少させ、精神保健及び福祉を促進する。 【7.3】 2030 年までに、世界全体のエネルギー効率の改善率を倍増させる。 【11.1】 2030 年までに、全ての人の、適切、安全かつ安価な住宅及び基本的サービスへのアクセスを確保し、スラムを改善する。   
インパクトに好影響を与える同社の方針・具体的取り組み	・ 同社は SDGs に積極的に取り組んでおり、取り組みの柱のひとつとして、「高気密・高断熱住宅で健康・快適・安心な家づくりを行います」を掲げている ・ 同社は住宅の気密・断熱性能を高め、暖かく健康で快適に暮らすことのできる NEB（ノン・エネルギー・ベネフィット）な住宅を提供する体制を構築している ・ 高気密・高断熱と併せ、全館空調システムを導入した住居は、ヒートショック等のリスク軽減、住居内の大気を清潔に保つといった健康面でのメリットのみならず、住宅における空調設備の減少による消費エネルギーの削減も期待できることから、同社は全館空調システムを導入した住居の販売割合を拡大させる方針

④ 長期優良住宅制度に対応した家づくり

項目	内容
インパクトの種類	社会面のポジティブインパクト創出・継続 環境面のポジティブインパクト創出・継続
インパクトトピック	「自然災害」「住居」「資源強度」「廃棄物」
関連する SDGs	【11.1】 2030 年までに、全ての人々の、適切、安全かつ安価な住宅及び基本的サービスへのアクセスを確保し、スラムを改善する。 【12.5】 2030 年までに、廃棄物の発生防止、削減、再生利用及び再利用により、廃棄物の発生を大幅に削減する。 【13.1】 全ての国々において、気候関連災害や自然災害に対する強靱性（レジリエンス）及び適応の能力を強化する。 
インパクトに好影響を与える同社の方針・具体的取り組み	・ 同社では家づくりのポリシーとして、「長寿命」・「広い」・「安い」・「高性能」を挙げ、住宅性能の向上に努めており、住宅性能の向上に向けた取り組みのひとつとして、長期優良住宅制度に対応した家づくりを行っている ・ 長期優良住宅制度の目的である、次世代に住み継げる住宅をつくることで、環境負荷と国民の住宅に対する負担を軽減し、より豊かで、より優しい暮らしへの転換を図ることは、同社の家づくりのポリシーとも合致しており、今後も長期優良住宅に対応した住居の施工数を増加させていく方針

⑤ なでしこプロジェクト等の活動を通じた女性社員の活躍

項目	内容
インパクトの種類	社会面のポジティブインパクト創出・継続 社会面のネガティブインパクト抑制・緩和
インパクトトピック	「ジェンダー平等」、「雇用」
関連する SDGs	【5.1】 あらゆる場所における全ての女性及び女兒に対するあらゆる形態の差別を撤廃する。 【5.5】 政治、経済、公共分野でのあらゆるレベルの意思決定において、完全かつ効果的な女性の参画及び平等なリーダーシップの機会を確保する。 【8.3】 2030 年までに、若者や障害者を含むすべての男性及び女性の、完全かつ生産

	的な雇用及び働きがいのある人間らしい仕事、ならびに同一価値の労働についての同一賃金を達成する。 5 ジェンダー平等を実現しよう  8 働きがいも経済成長も 
インパクトに好影響を与える同社の方針・具体的取り組み	・ 同社において女性社員の活躍は、企業の成長・持続可能性向上に不可欠な要素と捉えており、女性社員の活躍を促進する環境づくりを推進している ・ 今後、各部門・店舗における女性管理職を積極的に登用していく方針 ・ 女性社員で構成される「なでしこプロジェクト」を発足し、女性ならではの視点を同社の経営・事業に積極的に取り入れている

⑥ アルumni制度の推進

項目	内容
インパクトの種類	社会面のポジティブインパクト創出・継続
インパクトトピック	「雇用」
関連する SDGs	【8.3】 生産活動や適切な雇用創出、起業、創造性及びイノベーションを支援する開発重視型の政策を促進するとともに、金融サービスへのアクセス改善などを通じて中小零細企業の設立や成長を奨励する。 【8.5】 2030 年までに、若者や障害者を含むすべての男性及び女性の、完全かつ生産的な雇用及び働きがいのある人間らしい仕事、ならびに同一価値の労働についての同一賃金を達成する。 
インパクトに好影響を与える同社の方針・具体的取り組み	・ アルumni人材(同社にかつて在籍した人材)を活用したコグニティブダイバーシティを推進することで、従前は無かった視点や考え方が生まれ、多様化する経営課題やニーズに対応できる企業を目指す ・ アルumni制度を導入し、アルumni人材の積極採用を実施

III -4. インパクトニーズの確認

① 日本におけるインパクトニーズ

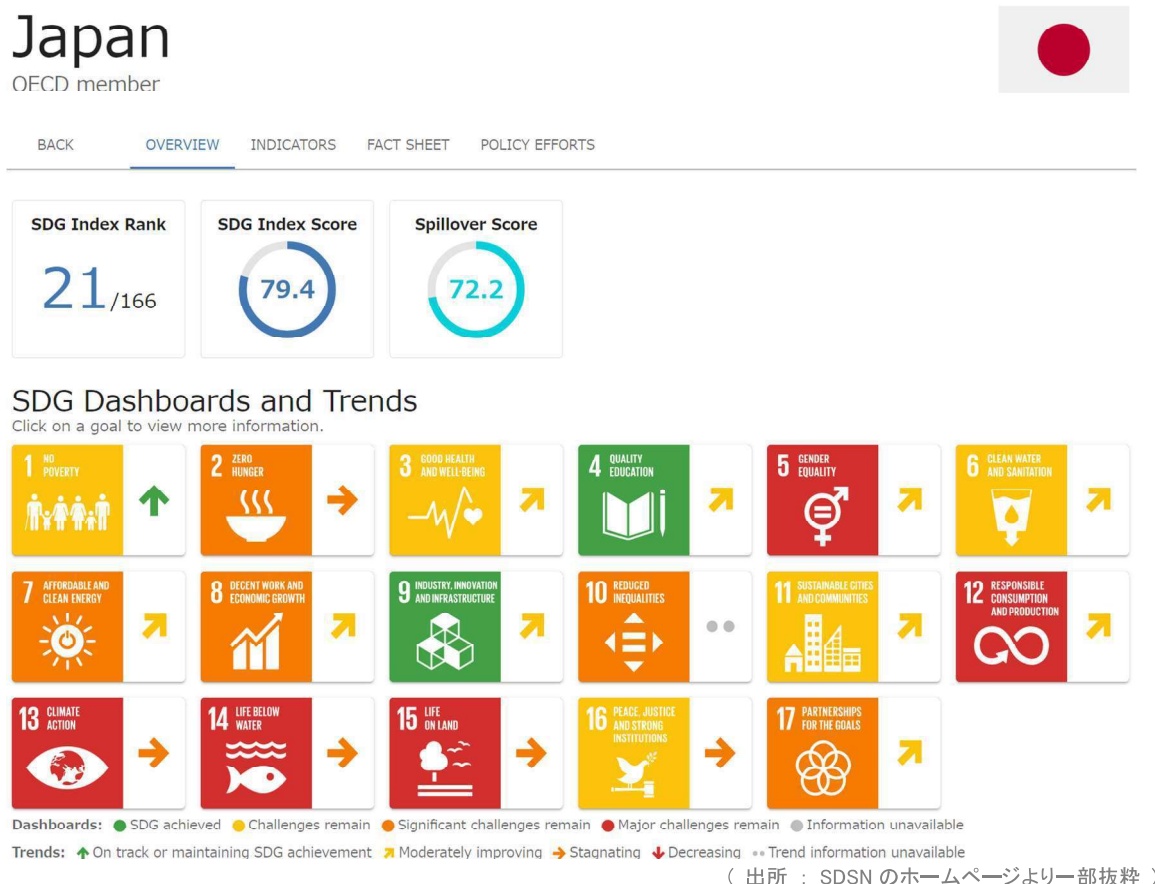
同社における事業・売上の主体は日本国内におけるものである。ここでは、日本国内における「SDG ダッシュボード&トレンド」を参照し、インパクトニーズと同社のインパクトに好影響を与える取り組みとの関連性を確認する。

インパクトに好影響を与える取り組みと関連する SDGs のゴールは「1、3、5、7、8、9、11、12、13」の 9 項目

であると考えられる。ゴール1.「貧困をなくそう」以外のゴールについての進捗状況は「緩やかに進捗(達成には不十分)」、もしくは「停滞している(50%未満)」と評価されており、日本国内において更なる取り組みが求められている。

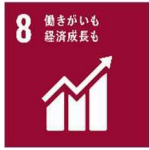
同社が事業活動を通じ、インパクトに好影響を与える取り組みを実施することは、日本国内のインパクトニーズと関連していることを確認した。

◆日本における SDG ダッシュボード&トレンド



◆特定したインパクトと関連する SDGsゴールの進捗状況

特定したインパクトと関連する SDGs ゴール	SDG ダッシュボード&トレンドにおける 進捗状況
1. 貧困をなくそう 	達成状態を維持もしくは達成予定
3. すべての人に健康と福祉を 	緩やかに進捗(達成には不十分)

5. ジェンダー平等を実現しよう 	緩やかに進捗(達成には不十分)
7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに 	緩やかに進捗(達成には不十分)
8. 働きがいも経済成長も 	緩やかに進捗(達成には不十分)
9. 産業と技術革新の基盤をつくろう 	緩やかに進捗(達成には不十分)
11. 住み続けられるまちづくりを 	緩やかに進捗(達成には不十分)
12. つくる責任つかう責任 	緩やかに進捗(達成には不十分)
13. 気候変動に具体的な対策を 	停滞している(50%未満)

② 兵庫県におけるインパクトニーズ

同社の本社が所在する兵庫県における「SDGs 未来計画」を参照し、兵庫県のSDGsの達成に向けたあるべき姿と、本 PIF にて特定したインパクトとの関連性を確認した。

◆環境・社会・経済面のあるべき姿

- i. 未来へつなぐ環境優先社会【環境】
 - ・ 衣食住全てにおいて脱炭素を志向するライフスタイルが広がっている
- ii. 住民自ら創る、住み続けられる地域【社会】

- ・ 地域の課題に自主的に取り組む人が増え、年齢、性別、国籍、障害の有無等にかかわらず、誰もが地域社会の中で自分の役割を見出し、交流しながら誇りを持って活動している
- ・ 地域資源を活かして元気な地域を創る活動が広がり、住民の地域に対する誇りと愛着が高まっている

iii. 新たな価値を生む経済【経済】

- ・ 社会課題解決や新価値創造に取り組むマインドを引き出す教育により、社会を変えようとする多くの若者が新しい事業に挑んでいる
- ・ 年齢や障害の有無などに関わらず、行きたいところに旅行することができる環境が整い、多くの観光客が訪れている
- ・ 自分らしい働き方やライフスタイルに応じて働く時間や場所を選ぶことができ、仕事の生産性と生活の満足度が高まっている

III -5. 山口銀行の方向性との整合

ここでは、本 PIF の取り組みと、山口フィナンシャルグループ（以下、山口 FG）におけるサステナビリティの方向性との整合を確認する。山口 FG では、持続可能な社会の実現に貢献していくために、「グループサステナビリティ方針」を策定し、この方針に基づき、重点的に取り組むべき ESG 課題である「マテリアリティ」を特定している。本 PIF にて特定したインパクトは全項目において山口 FG のマテリアリティは整合しており、本 PIF の取り組みと山口 FG の方向性が合致していることを確認した。

◆山口 FG「グループサステナビリティ方針」

私たちは、地域の皆さまと共に歩み、共に成長するため、様々な事業活動を通じて、多様な課題の解決に取り組む、地域の価値向上を実践していくことにより、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

◆山口 FG「マテリアリティ」

	地域社会・経済活性化 への取り組み	① 人口減少・少子高齢化への対応 ② 地域におけるイノベーション創出、地域産業の成長サポート ③ 地域コミュニティとの連携強化 ④ 商品・サービスの安全性と品質向上
	環境保全 への取り組み	⑤ 省資源・省/創エネルギーへの対応 ⑥ 大気汚染・気候変動への対応 ⑦ 環境に配慮した商品・サービス開発
	従業員全員の働きがい への取り組み	⑧ 人材育成・研修機会の創出 ⑨ 安心・安全な労働環境作り ⑩ 多様な人材の活躍（ダイバーシティ＆インクルージョン）
	強固な経営基盤づくり への取り組み	⑪ ガバナンス体制・内部統制の強化 ⑫ 経営の透明性向上と説明責任

（出所：山口 FG のホームページより）

◆インパクトに好影響を与える取り組みと山口 FG のマテリアリティとの関連性

インパクトに好影響を与える取り組み	山口 FG のマテリアリティ
地球環境に配慮した住宅の提供	⑥大気汚染・気候変動への対応
再生建材の活用による環境負荷軽減	⑦環境に配慮した商品・サービスの開発
健康な生活に寄与する気密・断熱性能の高い住居の提供	④商品・サービスの安全性と品質向上
長期優良住宅制度に対応した家づくり	④商品・サービスの安全性と品質向上
なでしこプロジェクト等の活動を通じた女性社員の活躍	⑩多様な人材の活躍 (ダイバーシティ&インクルージョン)
アルムナイ制度の推進	⑩多様な人材の活躍 (ダイバーシティ&インクルージョン)

III -6. インパクトに好影響を与える取り組みに対する評価

本項では同社の事業内容を踏まえたバリューチェーン分析とインパクトレーダーを基にインパクトに好影響を与える取り組みを抽出し、抽出された取り組みのニーズを確認した。

抽出した取り組みは、7 つのインパクトピック(「自然災害」、「健康および安全性」、「住居」、「雇用」、「気候の安定性」、「資源強度」、「廃棄物」)においてポジティブなインパクトを創出・継続されること、2 つのインパクトピック(「ジェンダー平等」、「資源強度」)においてネガティブインパクトを抑制・緩和されることが期待される。また、日本国における SDGs の進捗状況から鑑みたニーズ、および SDGs 達成に向けた兵庫県のあるべき姿との関連性を有しており、同社の取り組みは日本国・兵庫県にとって好影響を与えることが想定される。

本 PIF の貸付人である山口銀行の方向性とも整合しており、同社に対する PIF のスキームを活用した貸付は山口銀行にとって十分に意義のあるものと考えられる。

以上より、本 PIF において抽出されたインパクトに好影響を与える取り組みは、社会・環境の持続可能性の向上と同社の企業価値向上に資する取り組みであると評価する。

IV . 目標・KPI

前項にて抽出・評価された取り組みについて、同社の「SDGs4 つの柱」ごとに整理し、ポジティブインパクトの創出・継続、ネガティブインパクトの抑制・緩和の状況を測定・管理できるよう各項目に対し KPI を設定する。

IV -1. 気候変動を抑え未来の子どもたちのために地球環境を守る家づくりを行います

① 地球環境に配慮した住宅の提供

項目	内容
インパクトの種類	社会面のポジティブインパクト創出・継続 環境面のポジティブインパクト創出・継続
インパクトピック	「住居」「資源強度」「気候の安定性」
関連する SDGs	   

KPI	・ 2030 年度における住宅受注のうち、LCCM の割合を 50%以上とする。 (2023 年度実績: 11%)
KPI 達成に向けた 具体的な取り組み	・ 環境性能の高い住宅(ZEH(エネルギー収支をゼロにする住宅)、LCCM(住宅 の建設時、居住時、廃棄時までのトータルでCO2収支をマイナスにする住宅)) の普及に向けた啓蒙活動、営業活動の推進 ・ LCCM モデルハウス開設による顧客タッチポイント増強

② 再生建材の活用による環境負荷軽減

項目	内容
インパクトの種類	社会面のポジティブインパクト創出・継続 環境面のポジティブインパクト創出・継続 環境面のネガティブインパクト抑制・緩和
インパクトトピック	「住居」「資源強度」「廃棄物」
関連する SDGs	 
KPI	・ 2030 年度における住宅受注のうち、再生建材を活用した施工割合を 50%以上 とする。 (2023 年度実績: 25%)
KPI 達成に向けた 具体的な取り組み	・ 構造用パーティクルボード(廃材の木片などを集積した建材)の活用シーン拡 大 ・ その他活用可能な再生建材の調査・採用

IV -2. 高気密・高断熱住宅で健康・快適・安心な家づくりを行います

① 健康な生活に寄与する気密・断熱性能の高い住居の提供

項目	内容
インパクトの種類	社会面のポジティブインパクト創出・継続 環境面のポジティブインパクト創出・継続
インパクトトピック	「健康及び安全性」「資源強度」「住居」
関連する SDGs	  
KPI	・ 2030 年度における住宅受注のうち、全館空調システムを導入した住宅の割合 を 50%以上とする。(2023 年度実績: 28.3%)
KPI 達成に向けた 具体的な取り組み	・ 「YUCACO」をはじめとする全館空調システム商材の営業推進 ・ 全館空調システム導入の前提となる、高気密・高断熱機能を持つ「エネージュ シリーズ」の営業推進

IV-3. 長寿命な住宅で人にも地球にもやさしい家づくりを行います

① 長期優良住宅制度に対応した家づくり

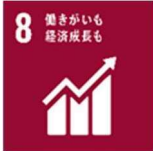
項目	内容
インパクトの種類	社会面のポジティブインパクト創出・継続 環境面のポジティブインパクト創出・継続
インパクトトピック	「自然災害」「住居」「資源強度」「廃棄物」
関連する SDGs	  
KPI	・ 2030 年度における住宅受注のうち、長期優良住宅の認定基準を満たす住宅の割合を 50%以上とする。 (2023 年度実績: 29.6%)
KPI 達成に向けた具体的な取り組み	・ ヤマト住建が提供する住宅の基本性能の向上(耐震性や、省エネルギー性等) ・ 長寿命な住宅の実現に資する施工後のアフターフォロー実施

IV-4. 全ての人と共により良い社会を目指す家づくりをします

① なでしこプロジェクト等の活動に通じた女性社員の活躍

項目	内容
インパクトの種類	社会面のポジティブインパクト創出・継続 社会面のネガティブインパクト抑制・緩和
インパクトトピック	「ジェンダー平等」、「雇用」
関連する SDGs	 
KPI	・ 2030 年までに女性管理職を 10 名登用する (2024 年 2 月現在: 3 名)
KPI 達成に向けた具体的な取り組み	・ なでしこプロジェクト等、女性社員が主体となったプロジェクト・事業の拡大 ・ 全社員の仕事と育児の両立の実現に資する職場環境・働き方の改善活動

② アルumni制度の推進

項目	内容
インパクトの種類	社会面のポジティブインパクト創出・継続
インパクトトピック	「雇用」
関連する SDGs	
KPI	・ 2030 年までにアルumni人材を 30 名採用する (本 PIF 実行以降計測開始)
KPI 達成に向けた具体的な取り組み	・ アルumni人材(同社にかつて在籍した人材)を含む、中途採用に向けた人事部門の体制強化 ・ ブラザー制度等を活用した、中途採用人材の育成プログラムの拡充 ・ 社内誌「突き進めヤマトマン」による中途採用人材の活躍事例紹介

V. モニタリング

V-1. インパクトの管理体制

同社では、本 PIF に取り組むにあたり、鹿田専務取締役と財務部の中部長にて会社の理念や方針、それらに基づく制度や活動を整理し、自社の事業活動が環境・社会・経済に与えるインパクトを確認し、SDGs との関連性や KPI の設定について検討を重ねた。

本 PIF 実行後においても、実行責任者である鹿田専務取締役を中心に、全社員でポジティブインパクトの創出・継続、ネガティブインパクトの抑制・緩和に取り組む。財務部が中心となり、取り組みの目的や意義を社内へ浸透させ、KPI の達成に向けて活動を実施していく。

◆管理体制

実行責任者	鹿田専務取締役
担当部署	財務部

V-2. 銀行によるモニタリング

山口銀行およびワイエムコンサルティングは、本 PIF の融資契約期間中において、当初企図したポジティブインパクトが創出・継続していること、重大なネガティブインパクトが適切に抑制・緩和されていることをモニタリングする。モニタリング期間中に達成した KPI に関しては、達成後もその水準を維持していることを確認する。なお、経営環境の変化などにより KPI を変更する必要性が生じた場合は、山口銀行とワイエムコンサルティング、同社の 3 者にて協議の上、再設定を検討する。

本 PIF の取り組みにあたり、インパクトを生み出す活動や KPI 等に関して、少なくとも年に 1 回、定期的に情報開示することを契約事項に組み込んでおり、公開情報での確認や営業店担当者の日々の対話によって達成状況をフォローアップする体制を構築している。また、このフォローアップは単なる KPI の進捗確認ではなく、必要に応じてインパクト実現に向けた対応策等に関するエンゲージメントを行うものである。

以上

【留意事項】

1. 本評価書は、ワイエムコンサルティングが、山口銀行から委託を受けて作成したもので、ワイエムコンサルティングが山口銀行に対して提出するものです。
2. 本評価書の内容は、山口銀行が現時点で入手可能な公開情報、ヤマト住建から提供された情報やヤマト住建へのヒアリングなどで収集した情報に基づき、現時点での状況を評価したものであり、将来における実現可能性、ポジティブな成果等を保証するものではありません。
3. ワイエムコンサルティングが本評価に際して用いた情報は、ワイエムコンサルティングがその裁量により信頼できると判断したものではありますが、これらの情報の正確性等について独自に検証しているわけではありません。これらの情報の正確性、適時性、網羅性、完全性、および特定目的への適合性その他一切の事項について、明示・黙示を問わず、何ら表明または保証をするものではありません。
4. 評価を実施するに当たっては、国連環境計画金融イニシアティブ（UNEP FI）が提唱した「ポジティブ・インパクト金融原則」及び ESG 金融ハイレベル・パネル設置要綱第 2 項(4)に基づき設置されたポジティブインパクトファイナンスタスクフォースがまとめた「インパクトファイナンスの基本的考え方」に準拠しながら実施しています。なお、(株)格付投資情報センターから、本 PIF に関する第三者意見書の提供を受けています。